

令和元年度第2回自立支援協議会権利擁護部会 議事要旨

1. 開催日時 令和元年7月19日(金)午後1時30分～2時30分

2. 開催場所 市役所4階 S2・3会議室

3. 出席者(委員)*団体名のみ記載

(特非)タオ、浦安手をつなぐ親の会、浦安市視覚障害者の会トパーズクラブ、浦安市自閉症協会、浦安市聴覚障害者協会、(特非)あいらんど、(特非)発達わんぱく会、(福)敬心福祉会、(特非)フレンズ、(福)なゆた、(福)サンワーク、(福)佑啓会、浦安市自治会連合会、介助ボランティアグループ「あいあい」、浦安商工会議所、(株)オリエンタルランド

(事務局)障がい事業課、障がい福祉課

4. 議事次第

1. 開会

2. 議題

(1)「第6回(令和2年度)障がいのある人もない人も!かがやくまち うらやす」について

(2)その他

3. 閉会

4. 配布資料

議題(1)資料1 第4回障がいのある人もない人も!かがやくまちうらやす実施報告
第4回チラシ(当日資料)

5. 議事概要

(1)「第6回(令和2年度)障がいのある人もない人も!かがやくまち うらやす」について

■説明(事務局)

平成28年4月に施行された障害者差別解消法、市の障がい者差別解消条例の周知を目的に、第1回を平成27年12月に開催した。これまで4回開催し、今年11月2日で5回目を開催することまでは決定している。5年間差別解消法の周知活動を行い、一定の成果を得た。来年度の第6回に向けて、イベントの開催の是非や、新たな目的の位置づけが必要。現在は市単独の主催で参加団体は参画にかかわっておらず、実行委員形式などへ運用を移行することも再検討を要する。

また、権利擁護部会でも、周知・啓発活動は今後『障がい』という冠がついていないイベントで『全体の皆さんの中に障がいのある方も含まれている』という観点で周知・啓発活動を展開していくほうがいいのか」という声もあり、イベントを現行どおり障

がい者部門の単独の「障がいを持つ方に対する啓発のイベント」として開催し続けるのか、市民まつりなど一般向けのイベントの中に啓発活動の場を移すのか、開催方法についても議論したい。

■主な意見（サ：サブリーダー 委員：委、事務局：事）

委：このようなイベントは継続すべきと思う。普及、周知、イベントを通して障がいを持つ方との健常者との交流機会が生じる。相互理解・交流が生まれるという意味では、市民まつりなどの一コーナーで出展・参加するよりは、単独で今までのような形で継続したほうがよい。浦安に限らず、まだまだ障がい者への理解は高まってはいないと感じる。イベントの意義としては「相互理解」。

また、日常的に障がいのある当事者をケアしている家族の方々に視点を当てる何か、あるいはそういう要素を取り入れることもよいのではないか。

委：単独イベントとして継続した方がよいと思う。資料にある一定の成果、5年という節目はあるが、一般の方に対するアピールはまだまだできる。

企業は「人手不足」の課題を抱えており、性別や障がいの有無に関わらず、パソコンやテレワークのように自宅にしながら、社会参加の方法はある。イベントも単にPRにとらわれず、もう一歩社会参加まで踏み込んで、雇用の拡大、就業支援の形でやれば、ほかの団体も参加できるのではないか。幅広く声をかけて、例えば車椅子の団体だとか、義足の団体だとか、あるいはパソコンの業者みたいな、一歩進んだところの団体参加を狙ってもよい。

委：このイベントの前身として実行委員会のような形式で12月第1週の障害者週間に合わせてイベントを開催していた。いろいろ考えてやっていたが、集客が弱く、交流会をやっても何をしても人が集まらなかった。障害者差別解消法ができたので、新浦安に移って、市が全面的に主催して第1回イベントを開催することになった。見ていると、通行人やフリーの人も来ており、新浦安駅前で開催しなくなるのは惜しい。

委：当事者として、開催は素晴らしいと思う。意義があるし、やりたいな、という思いはあるが、実行委員形式でやるとなると、どの事業所もマンパワー的なところで苦勞する部分も正直あるかと思う。事業所の中でどう回していくか、課題を感じる。もちろん、開催することは非常に重要。開催自体には賛成であるし、自分たちが事業者としてどのように参加できるかということを考えていきたい。

サ：実行委員形式だと人手の負担が大きくなるのは確か。開催の意義、テーマ、位置づけ、何を掲げて行うというような、その辺のところも含めて、いかがか。

事：多くの委員から、これからも継続していくべきとの意見を頂戴した。開催について否定されることはないと思っていたが、このままの開催でよいかどうか。今までの開催の意味合い、あるいは開催の方向、時期についても、適当であるのか、一度立ちどまって考えたほうがよいと考え、議題に挙げた。

実際に参加している団体の実感として、このイベントで実行したいことができている

か聞きたい。できていなければ、実行委員形式など、やり方の変更も考えていく。これまでの4回の開催の方法でよかった点や変えたほうが良い点があれば、積極的に指摘いただきたい。ここが今後のイベントのあり方の変わるポイントになってくる。

委：自分たちでつくったものを売る、自分たちで調理したものを売る、それが当事者にとっての活躍の場であり、このイベントに参加する意義であり理由。

ただ、イベントのタイトルが「障がいのある人もない人もかがやくまちうらやす」であり、開催意義が相互理解や障がい理解であるならば、そこまでは到達できていないと正直感じている。お菓子は販売するし、当事者は喜んでいるが、それがどこまで相互理解につながっているか、どこまで障がい理解につながっているかは、見えない。

サ：市民まつりなど、ほかのイベントに入っていくことと、障がい分野単独でやることの大きな違いはあるか。

委：市民まつりのようなバラエティーに富んだコンテンツのイベントに出展、参加していくのは集客の面からも悪くはないが、そこで理解促進や相互理解という目的達成までは難しい。人が多く集まり、かつその場の意図、ふさわしい空気感、空間をつくっていくことが大事。ただ人が集まるから何でもそこに出れば良いというのは少し乱暴かと思う。

委：市民まつりの実行委員を長く務めた経験から言うと、参加団体数もジャンルも非常に多く、その中に出店しても薄まってしまい効果に疑問を感じる。それなら、「障がい」という冠をきちんとつけて開催した方がよい。

また、市民まつりというのは、実行委員形式で運営されており、いろんな団体の実働部隊や長が出ており、市の予算も何百万単位でついている。例えばパラリンピックに出た有名選手などを呼ぶのであれば、障がいがあってもこれだけ頑張れるということも多くの方に知ってもらえる。お金をかけることも必要なかと思う。市民まつりに出店して薄まってしまふよりは、単独で開催してきちんと目的を出したほうが効果的。

委：市民まつりに参加して、こっちから全体向けのイベントに入っていくのもいいのではないかと思っていたが、埋もれてしまふては意味がないと、他の委員の意見を聞いて納得した。福祉関係、当事者関係だと思入れが強くなるので、イベントで人に周知するという話になると、福祉から少し離れた視点の客観的な意見は貴重。

開催意義は、毎年テーマを変更しながら続けてもいい。テーマも障がい者に限らず、例えば高齢者も含めた虐待をテーマとし、全部絡めながら開催するなどいい。

場所は新浦安駅前広場など、通りかかっている人にも知ってもらえるところがよい。

委：過去にパラリンピックのスキーマの選手を呼んで文化会館で講演会をした際には集客が少なく苦労した。この点からも、広く開かれた場所でみんなに知っていただくほうが、障がいばかりでなく、また、障がいと一言で言ってもいろいろあるので、現在のように新浦安駅前「障がいのある人もない人も」というのを全面に出して、みんなが住みよくなるということに向かっているのがいい。

委：イベントの告知はどのような方法でしているのか。

事：ホームページや広報、カラーチラシを利用している。今年度はなるべく早くチラシを完成させ、周知期間を長くとりたい。

委：地域振興課の自治会連合会定例会の際にチラシを配布できないか。

事：自治会連合会定例会のタイミングに合えば、依頼することは可能。

サ：議題1意見のまとめ。単独イベントとして、しっかり「障がい」という冠をつけ、障がいのある人もない人も参加しやすい新浦安駅前広場など開かれた立地条件の場所で開催し続ける。

(2) その他

■説明（事務局）

権利擁護センターに寄せられた合理的配慮に関する、聴覚障がいのある方と病院の対応の事例について、調整活動の内容を説明。